



(大阪東南部)

# 大阪・萱振<sup>かやふり</sup>A遺跡

- 1 所在地 大阪府八尾市幸町一丁目
- 2 調査期間 一九八四年(昭59)二月～二月
- 3 発掘機関 勉八尾市文化財調査研究会
- 4 調査担当者 原田昌則
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代後期～鎌倉時代後期
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

萱振A遺跡は、河内平野のほぼ中央部に位置する遺跡で、長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地上に立地している。一九八四年に店舗付

改良住宅建設に伴い、勉八尾市文化財調査研究会が発掘調査を実施した。なお、調査地点の西側は、白鳳時代の創建とされている西郡廃寺の推定地に当り、寺院に関係した遺構の存在が予想されていた。調査の結果、屋瓦等を多数検出した以外

は直接寺院に關係した遺構はなく、主に平安時代後期から鎌倉時代後期に比定される遺構・遺物を検出した。

墨書は、一三世紀後半に比定できる井戸(曲物井戸)の側板に転用された最下段の曲物容器に記されていた。

## 8 木簡の釈文・内容

- (1) 「行勝房<sup>〔齋カ〕</sup>也保元三年十二月四日儲也」

601

曲物容器(径三三・〇cm・高二五・五cm)に記されている。「齋<sup>とぎ</sup>」と読めば、仏家の食事に關連した事柄が推定される。したがって、行勝房という名の僧侶が食事に使用した器、ないしは、行勝房の食器類を収めた器に記された内容と理解できよう。なお、墨書の年紀と井戸出土遺物とは約一五〇年の時期差が認められることから、この曲物は長期間保存された後、井戸側板として再利用されたものと推定できる。

## 9 関係文献

勉八尾市文化財調査研究会『昭和59年事業概要報告』(一九八五年)

(原田昌則)